

札幌市自立支援協議会

子ども部会ニュース

第6号(2018年3月)
発行 札幌市自立支援協議会子ども部会 事務局
連絡先
〒007-0836
札幌市東区北36条東9丁目1-1
TEL:011-776-6856 FAX:011-776-6857
E-mail:muginoko@muginoko.com

今年度の子ども部会のまとめ(北川部会長)

子ども部会も今年度で、6年目に入りました。今年は教育・福祉・医療の連携プロジェクトの最終年で、来年度からは地域部会を中心に各地域で連携を図って頂くようにしていきます。また現在、医療的ケア児に対し、国の施策としても力を入れていますので、全体研修会では、稲生会の土島医師をお招きして講演をして頂きました。それに加えて、各都道府県で医療的ケア児の協議会の設置が義務づけられましたので、その事務局を札幌市障がい福祉課と共に担うことになりました。

社会的養護では、社会的養護ビジョンの検討会の構成員であった松本伊智朗先生をお招きして講演をして頂きました。次年度は子ども子育て、社会的養護、医ケア等それぞれの連携を深め、それぞれの専門性をより地域で活かせるように取り組んで行きたいと思えます。

「社会的養護の必要な子どもを受け入れている里親・入所施設等関係職員の意見交換会」

(もなみ学園 河岸事務局員)

平成29年度の社会的養護に係わる研修会は、昨年度行った社会的養護の将来像と課題内容を受け、第1回目は平成29年9月6日に4施設による実践発表会を参加者26名で開催しました。発表概要は次の通りです。

- ・福祉型障がい児入所施設(支援困難児童の一事例～問題行動の減少した取り組み経過)
- ・児童養護施設(児童養護施設におけるファミリーソーシャルワークの実践)
- ・自立援助ホーム(自立援助ホームにおける退去者支援について)
- ・子どもシェルター(子どもシェルターの活動について)

続く第2回目は平成30年1月26日に、実践発表の発展型として子どもの貧困と虐待に関する内容をテーマに北海道大学大学院教育学研究院の松本伊智朗先生を講師に制度政策論や施策動向をふまえた内容で講演会を開催し、社会的養護に係わる施設および関係機関の職員等15施設40名の参加がありました。



(講演会「社会的養護について」)

「子ども部会全体研修会」(伊西委員)

札幌市自立支援協議会子ども部会主催の全体研修会が、2017年10月19日(木)18:00-20:00にWEST19を会場として開催されました。

6回目となる今回のテーマは「医療的ケア児支援」。医療法人稲生会の土島智幸医師を講師に招き、用意していただいた膨大な資料をもとに医療的ケア児の現状と課題について濃厚に学ぶ場を持つことができました。

会の中では医療的ケア児をとりまく全国的な動向や北海道や札幌市が抱える現状と課題を共有し、参加しているものそれぞれが自分の立場に置き換え、今後どんな支援ができるのかについて真剣に考える機会となりました。

2016年春に児童福祉法の一部が改正され、法律の中で「医療的ケアを要する障害児」という言葉が使用されたことにより、「医療的ケア児」にやっと公にもその存在に光があたり始めました。

札幌市が、そして地域でともに暮らす私たち一人一人が、今、支援のための手立てを考える必要性を問われています。

「教育と福祉・医療の連携に係る課題検討会からの報告」(青木委員)

有期限である当プロジェクトの最後の活動となる「放課後等デイサービスの参観日」(11月22日～12月8日)と「教育と福祉・医療連携セミナー」(2月8日)を行いました。それぞれ44名と145名の参加をいただいております。

プロジェクト活動の終了後も「連携に関する課題」と「インクルーシブ・合理的配慮の課題」は引き続き定着に向けた取り組みが必要です。次年度からは各区に設立されている、各区の子ども部会、または地域部会に活動を引き継いでいただきます。

「放課後等デイサービスの参観日」は子ども部会で各区の希望をとりまとめ開催する予定です。各区独自に企画・開催する活動に際しても子ども部会との連携・支援の下に行われる予定です。 (「教育と福祉：医療連携セミナーより」)



「子ども発達支援者支援力向上セミナー」(麦の子会 金澤事務局員)

—昨年、放課後等デイサービスのガイドラインが示され、児童期の子どもへの支援や家族支援、機関連携の必要性や、支援内容の質が問われている現状です。子ども部会では昨年度に続き、「発達支援を必要とする子どもの課題や自立に必要な支援方法について学び、実践内容の向上や支援力のスキルアップ、連携の充実」を目指しセミナーを開催しました。

今年度は、9月と2月に2回(3日間連続)開催し、約90名の参加者を得て、講義、ワークショップでの学びを提供し、修了書を交付しました。参加者からは好評を得ています。次年度も、同様のセミナーを開催すると共にケース検討を加えたレベルアップセミナーを企画、開催したいと考えています。



「1年間を振り返って」(米島副部長)

昨年度は医療的ケアの必要な子どもたちのことや子どもの貧困に目が向けられるなど、考えるべき子どもたちの問題の幅の広さや、難しさを感じる1年でした。その中でも、各区の子ども部会の活動の広がりや“放課後デイの参観日”のようなつながり(連携)の中で、社会でどう子どもを育てていくのかという基礎を作っているのが子ども部会の仕事なのだったと思った1年でもあります。何もしない副部長ですが今後も勉強させていただこうと思います。

